

「経皮的心肺補助法を施行された患者の検討」に対するご協力のお願い

— 2009年1月1日～2016年6月30日の間に集中治療室・救命救急センターへ入院され、経皮的心肺補助法を施行された方へ—

研究責任者 獨協医科大学病院 救急医学講座 教授 小野 一之
研究分担者 獨協医科大学病院 救急医学講座 助教 内田 雅俊

このたび当院では、上記のご病気で入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、研究責任者または分担者までご連絡をお願いします。

1. 研究の目的 及び 意義

経皮的心肺補助法は機会により心臓と肺を補助することで患者の生命を維持する治療法です。重症な心疾患、肺疾患、何らかの原因で心臓が止まってしまった患者さんにこの治療が行われています。しかし、治療が必要になった原因となった病気が重篤なこと、治療に伴う副作用が多いことから経皮的心肺補助法を行ってもすべての患者さんが救命できるわけではありません。本研究はこの治療をどのように行うことでより有効性が期待できるようになるかを明らかにすることを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2011年8月1日～2016年6月30日の間に獨協医科大学病院集中治療室、救命救急センターへ入院し、経皮的心肺補助法を施行された方を研究対象とします。

2) 研究実施期間

平成28年7月倫理委員会承認後 ～ 平成32年3月31日

3) 研究方法

上記1)の研究対象者について、研究者が診療情報に基づいて患者さんの特徴を調べ、比較します。

4) 使用する試料・情報

患者さんのカルテから情報を得て研究を行わせていただきます。

5) 試料・情報の保存

本研究に使用した情報は、研究終了後5年間保存いたします。なお、保存した試情報をを用いて新たな研究を行う際は、救命救急センターのホームページおよびセンター入口にポスターを掲示してお知らせします。

6) 研究計画書の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧することができますので、お申し出ください。

7) 研究成果の取扱い

この研究の成果は、あなたのデータを個人情報が見えない形にした上で、学会や論文で発表する予定です。

すのでご了解ください。

8) 問い合わせ・連絡先

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので下記にお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

獨協医科大学病院 救急医学講座

氏名：内田 雅俊

電話：0282-86-1111（平日：9時00分～17時00分）